

おお大勝利

平成 26 年度山東サッカー部報第 17 号 (9 月 10 日)

サッカー部保護者の皆様、OB・OGの皆様、日頃より本校サッカー部の活動にご理解とご協力を賜りまして、感謝申し上げます。

Y2B辛勝の連勝

8 月 23 日 (土) Y2B 第 11 節酒田南戦が鶴岡南高校 G で行われました。酒南はそれまで Y2B で勝ち点 0 と相当苦しい戦いを強いられている。事情により、この節、顧問今野不在。臨時監督齋藤 GK コーチの采配の下、試合開始。前半 3 得点。志村顧問から今野の下にメールが入りましたが、携帯が鳴った時に胸が高鳴りました。「大丈夫だろうか・・・。」しかし、心配をよそに、前半 3 対 0 で折り返したとの報に安堵。「であれば後半も」と期待しましたが、後半は両チームスコアレスで、結局 3 対 0 の勝利。どうやら、**複数得点をするにはしたが、試合内容を冷静に観るにかなり接戦だった**ようで、当たり前とは言え山東の力が圧倒的なものではないことを教えられる試合となったとのこと。試合前日にも、「高校生は夏を経て伸びる。これまでの成績で彼我の力を判断することなく、戦いなさい」との内容のことは伝えておりましたが、その警告が現実のものとなった模様。というか、ここでいう「これまでの成績」も、山東にとって 3 年生のいるチームで築き上げたものが多い訳で、この新人チームは常に謙虚であらねばならない。それにしても、前半の酒南の出来は良かった¹ようで、選手が選手起用や戦術も自分たちで決めるボトムアップ理論が少しずつ形を成してきたことをうかがわせました²。ともかく、**山東辛勝第 1 弾**。

9 月 7 日 (日) は Y2B 第 12 節山形明正戦が人工芝の明正 G で行われました。Y2B の他の試合は 8 月 30 日 (土) に行われておりましたが、学校行事の関係でこの試合だけ 1 週ずらして実施されました。試合前の段階で 8 チーム中暫定 7 位の明正にとっても暫定 2 位の山東にとっても負けられない一戦です。早朝? の雨のおかげでピッチは濡れた人工芝。すなわち、暑さも紛れる最高のコンディション。清野 OB 会長、後藤報道局長、佐竹校長がいつも通りいらっしゃる。多くの保護者も、いつもより出足が早い。しかも、試合前から円陣を組み、これから戦う選手たちのよう³。志村顧問は体調がすぐれず休みましたが、齋藤 GK コーチ、名和トレーナー、そして**今年からせりかわ整骨院に所属することになった吉住トシ一十**⁴もお越しになり、役者は揃った。あとは選手が頑張るだけ。

キックオフからしばらく一進一退の膠着状態。どちらかといえば明正の押し気味か。山

¹ 山東にとってピンチを作られたのは、主に前半だったとのこと。前半 3 対 0、後半 0 対 0 と聞くと、後半苦戦したのかと思いますが、内容はその逆だったようです。

² 8 月 30 日 (土) に行われた Y2B 山商対酒南が驚きのドローだったことから、酒南の調子が上がってきたことがうかがえます。

³ もちろんこの円陣は、今後の**保護者会主催の激励会 (9 月 28 日(日)@メトロ)**の打ち合わせでしょうけど。ちなみに、**この激励会、佐竹校長も参加予定であります**。保護者の皆様、多数参加していただき、選手を激励して下さることをお願い申し上げます。

⁴ 弱冠 29 歳、鶴岡東高校バスケットボール部出身。山形市在住。

東も明正も、大事な試合だけに、試合に慎重に入った印象あり。DFが、多く最終ラインに残っており、攻め上がらず、ともに攻撃が迫力不足。そんな中、最初にチャンスを作ったのは明正。FWのポストプレーで山東のDFを喰いつかせつつ、そのDFの裏のスペース⁵に違う選手が入り込み、素早く縦にフィードする形（縦のワンツースリー）から好機を創り出す。しかし、遅れながらも山東CDFタツルが間に合い、事無きを得る。その後は山東ペースと言えないまでも、前半終了間際に打たれサイドネットの外側に吸い込まれたシュート以外は明正に好機を作らせず。逆に、**山東ペースと言えないまでも点を取ってしまう所に、今年の山東の勝負強さがある！** やはりムンタリが左MFユウトのスルーパス？から抜け出し、GKとの1対1、冷静に決め先制。それが前半の12分。そして、またもやムンタリが最終ラインを抜け出し、もう一人のFWタイチに「後は決めて下さい」というゴールを横切るパスを供給。タイチが身体を投げ出しなら決め前半41分に追加点ゲット。齋藤GKコーチが「(前半終了間際の) いい時間に決まった」とつぶやく追加点が決まる。ただ、**内容的には、低い位置⁶から試合を作ろうとするも、DF-MFの凡ミスが多く、立て続けにチャンスを作るような山東の流れを作れずじまい。**

後半はお互いに、よりゴールチャンスを作る展開。山東の方がトータルで見るとチャンスは多く、優勢と言えるが、時間とともに明正のリズムになるような、後味の悪い試合。しかも、明正のリズムは山東が作り出したとも言うべき、自滅なのであります。後半20分に**ボランチの軽いフレーでボールを奪われ、そこからパス一つで失点。**パスコースがない、パスコースに味方がしっかり入ってくれないことをそのボランチは訴えていましたが、それは前方にパスできなかったことの原因にはなっても、ボールを奪われたことの原因にはならない（ボールロストの回避の仕方はいくらでもあった）。私が失点後のキックオフ直前にも試合終了後にもその選手にかけた言葉は、「今回のプレーのみを反省するのではなく、プレー全体を反省しなさい」。正直、「あいつ、やはりやったか、いつかやると思っていた」という印象を受ける失点でした。それを回避するために、これまで様々な声掛けをしてきたつもりですが、彼のプレーが大きく変わることはなかった・・・指導不足と言われればそれまでです。彼は、ある面、非常にテクニックがあり、インテリジェンスもある。しかし、本人に自覚があるかどうかわかりませんが、巧さをひけらかしたり軽いプレーをすることが多く、新チームになってからますます球離れが悪くなってきた。そりゃ、怪我が多くなりますよ。**そろそろ井の中の蛙から脱却し、大海（not 大会）で通用する選手にならなければならない・・・そんな警告となった試合でした。**明正は得点后、「行ける」と意気上がり、選手がクロスしボールを交換するスイッチプレーを織り交ぜながら、山東DFをはがしにかかる。同点にされる危険性が出て焦る山東。しかし、後半29分またもやムンタリがその意気をくじく3点目をゲットし、流れを今一度引き戻す！！が、後半39分アウトサイドでもう一人のボランチがマークを連続して外す軽い対応⁷をし、フリーでセンターリングを許す。と思ったら、シュートだった！ GKサブローも予想を外され、角度のないところから打たれたシュート

⁵ ポストプレーに山東DFが喰いついたことで、元々そのDFのいた場所が誰もいないスペースとして作りだされ、そこを使われたということ。「スペースはただ『ある』のではなく作りだすもの」という認識は重要。

⁶ 自ゴールに近い位置のことを低い位置、相手ゴールに近い位置のことを高い位置と呼びます。

⁷ 相手のワンツーについていけない軽い対応でした。「アプローチした相手がボールをはたき動いたら、ボールに喰いつかずその相手のマークにつき続ける」とは小学生でも習う守備の初歩です。

がゴールインし、3対2へ。**残り時間はFWも1枚守備的にし、1点を守りに行き、何とか3対2で勝利。**技術的に未熟なだけでなく、個々の選手の詰めの甘さが目立ち、試合を難しくしてしまい、相手を勢いづかせた試合となりました。勝つには勝ったが反省の多い試合といえるでしょうか。これで**山東辛勝第2弾。**

まあ、辛勝でもなんでも、公式戦は勝ちが欲しい訳で、その点は合格点ですが、その日の解散に際しての選手の反省でも「今日の収穫は勝ち点3を取ったことだけ」と厳しいものだったことからわかるように、勝って兜の緒を締めなければならない試合だったことは間違いありません。

さて、今週末は地区新人です。すでに新人チームで数試合経験してきたアドバンテージを活かせるか。今年、県総体で村山地区がベスト4を総取りしたので、村山地区に（選手数・チーム数の関係で）割り当てられる県新人4枠にプラスして、もう4枠が与えられ、計8チーム出場可能。ということで、**下のトーナメントの初戦に勝てば、県新人の出場権が与えられます。**山東の初戦は寒河江高校。難敵です。応援よろしくをお願いします。

♪連絡♪

先日、保護者会の皆様より、顧問今野の第二子善寛誕生に際しまして、お祝いを頂戴いたしました。**ありがとうございました。**現在は、うつ伏せの格好にして首を動かさせる厳しい「トレーニング」を実施中です。首の据わりが早くなるとのこと、康蔵のときは毎日泣くまでやり、妻に叱責されておりましたが、それを善寛にもやってま〜す！（でも、首を横にしたまま動かないことが多く、なかなか「トレーニング」効果は得られず）